

2019年(令和元年)10月16日発行

運審連だより
きずな

第64号



福井市公民館運営審議会連絡会

事務局 中央公民館内
福井市手寄1-4-1 アオッサ5階
TEL20-5459・FAX20-1538

わこ うど

若人が 和を奏でる

ふれあい音楽・芸術祭

A graphic featuring musical notes and water ripples. The notes are orange and yellow, and the ripples are light blue. The text 'わこ うど' is written in green above the main title. The main title '若人が 和を奏でる' is in large, green, stylized characters. Below the title is the subtitle 'ふれあい音楽・芸術祭' in green.

「若人が琴をいっしょうけんめい演奏しました」

明新公民館

貴重な意見も…

令和元年度の総会を開催

本年度の総会が5月25日（土）午前10時から福井県自治会館で開催しました。赤松会長の挨拶の後、来賓祝辞、社会教育功労者表彰、各種報告を行いました。

総会前には、新任委員研修会もあり、新しい運審委員の方が受講されました。

総会後の全体研修会では、兵庫県西宮市「つどい場さくらちゃん」理事長丸尾多重子氏の講演は、パワフルおばちゃんが介護活動に取り組んでいるその奮闘談を紹介し、楽しく聞きながらも、考えさせられる内容でした。介護の必要な人たちをどのように支えていくかについての話はよく聞きますが、介護する人たちも含めた介護家族の活動の大切さを知りました。

介護について講演



▲講演する丸尾氏



▲総会に多数の委員が参加



▲杉本知事が挨拶

💡 講演のポイント

介護施設つどい場
さくらちゃんの
活動基本4つの柱

- ①「つどい場」…感情の吐露と情報交換
- ②「おでかけタイ」…身体を動かす
- ③「学びタイ」…介護技術・医療のことを知る
- ④「見守りタイ」…話を聴く・そばにひとがいる

報告 編集委員 伊佐田 薫

運審連

今年のテーマは…

公民館と運営審議会との関わり方

福井市公民館運営審議会連絡会

会長 赤松 昇樹

本年度は元号も令和と改元されたのを機に、地域住民がより主体的に公民館運営に参画し、公民館における各種事業の企画実施するなど、公民館の運営について協議し、地域に密着した事業を推進して地域の発展・生涯学習に寄与できるように、『公民館と運営審議会との関わり方』を運審連としてテーマを設けさせていただきました。

それぞれの運審委員が、どの様に公民館と関わっていくのかを考えてみる年にしたいと考えています。



明新地区

明新公民館

運審委員長 黒川賢治

館長 小林修二

住所／電話 灯明寺35-1-1／0776-22-7880

文化祭から独立した新しい企画!

私達は明新公民館で、交流・健康・文化教育の向上を目的にいろいろな行事を企画しています。近年マンモス地区となり、住民のニーズも移り変わり、事業の対象や企画の見直しが必要となりました。

その手始めに「新たな絆づくり」にチャレンジすることとしました。

その1つが従来開催している「文化祭」ですが、新たに次のような課題と目的が浮上しました。

- ①小学校体育館で発表するには、不自然でなじまない発表がある。
 - ②様々な特技を持った方が、地区には多くおられるがその実態が分からない。
 - ③その方々を発掘して、公民館行事に関わっていただき、地区の新しい交流の機会を広げたい。
- などの課題解決と目的実現にチャレンジする、文化祭から独立させた「第1回ふれあい芸術祭」を2月24日(日)に開催しました。当日は予想をはるかに上回り、多くの来場があり、公民館が満員になる大盛況でした。

演奏会場は静かな中、感動で涙を流して聞いておられた何人かの方々の姿がとても印象的でした。

「発表の場を設けていただき嬉しい」「音楽として聞いていただき満足」

「個人発表する機会を作っていただき感謝している」

などの感謝の声が多くあり、「来年からもぜひ続けてほしい」と強く要望されました。

私達の新企画で「新しい絆づくり」のスタートができたことに達成感と、今後の責任を感じています。

次に第2段として、普段何気なく暮らしている地区内のいろいろな施設等にスポットを当てて、その生い立ちや歴史、苦労話等を追求した「新探訪ウォーキング」を開催しました。

その中で新しい「語り部」や、「誇り、財産」的価値のスポットを多く発掘できました。

地区全区を踏破するには、数年を要する企画ですが、今後は未だ実施していない地域を巡り、新スポットを探訪、絆を広げていきます。



▲「新探訪ウォーキング」
地区ガイドによる説明



▲本格的なテノール独唱

東安居地区

東安居公民館

運審委員長 竹内 清

館長 村上 勉

住所／電話 飯塚町6-18／0776-35-9566

近未来の地域づくりの担い手育成を目指して

東安居地区では、こどもから大人までが郷土愛をもつことができるような世代間交流の事業や市民憲章運動の推進に力を入れ、活動を通じてふるさと意識の高揚や近未来の地域づくり担い手の育成を目指しています。中高生から青年へと大人になる過程の中で、地域事業などに参画することで、経験豊かな幅広い視野と地域に愛着をもつ若者の育成を図っています。

人材育成事業では、「できる時にできること」をモットーに趣味や特技、仕事の経験などを活かして、地域事業に参画・貢献していただける「我が町のスケットさん」制度の充実と拡大を図るべく、新たな人材の発掘にも力を入れています。

このように、公民館事業や地域事業を通じて、あらゆる世代がつながりを深め安心して住みつけられ、住んでいて良かったと思えるまちづくりを目指しています。



▲サ・いってこ祭
こども広場



▲「我が町のスケットさん」

私の趣味と地域活動

私の家のすぐ横に旧荒川があり、そんな立地条件の為に小学生の頃から釣りを始めました。その頃は、自宅の庭に生えていた細竹を祖母が釣り竿に仕立ててくれ、木綿糸と釣り針で近所の悪がき達と一緒に川釣りを楽しんだのは懐かしい思い出です。そして、今でも熱中している人生で、一番長い付き合いの趣味は「釣り」です。小学生、中学生の頃は川釣り中心でしたが、高校生になって海釣りの豪快さと大海原の自然に魅了され、それ以来ずっと海釣り一本です。「釣り」の魅力、楽しみは4つあると思います、それは、①ワクワクする「計画・準備」②心が癒される「自然とのふれあい」③ドキドキする「釣る楽しさ」④「釣った魚を食す」喜びです。しかし、最近は地域活動に時間をとられ、釣り活動に専念できないのが現状ですが、釣りと同じように地域活動もワクワクドキドキしながら地域の皆さんとともに楽しみたいです。



▲円山公民館前で大漁のふくらぎをおすそ分け

円山公民館運審委員 葭原 徹 男

素人の野菜作り「事始め」

今年初めて野菜作りに挑戦しました。経験もなく全く知らない中で、勤めの合間でのスタートでした。そんな中、友人の助言で何とかこなしていきます。しかしその通りにはならず、「どうして？」ということばかりで、改めて「経験・知識不足、そして野菜の気持ちになること！」を痛感しています。



▲素人の野菜づくり「事始め」

春山公民館運審委員長 舟木 幸雄

「多種多様」を活かして

豊地区は足羽三山(足羽山・八幡山・兎越山)に囲まれた緑豊かな地です。

又、商業、工業、大型店舗、住宅団地、病院など多くの施設が散在しています。

私達運営審議会の全委員は公民館を主とする地域の事業に参加・参画をしています。

多くの事業には春に開催される兎越山のふもと、カルチャーパークで“もえぎ祭”があります。これは次世代につなげていく重要な行事です。春の陽ざし(日差し)をいっぱい浴びてよもぎ餅をばくばくばくり!! 4月にはどうぞ皆様のお越しをお待ちしています。

豊公民館運審委員長 田村 洋子



▲小委員会開催

「県域絶滅危惧の1類”ミズアオイ田”」へ 古代米苗を移植中

歴代安居壮年会長の各種活動を発展的に踏襲していたら、あすの福井県を創る協会から、5月29日運動優良実践者賞を受賞しました。

今後も“気は長く笑いっぱい腹立てず、健康寿命のびのび延ばす!”を基軸とし、地域貢献できるかな?(自問)

安居公民館運審委員長 石畑 千太郎



▲みんなで古代米田植え

45年間まちづくりをしています

私は、青年団の頃からまちづくりを始め、「国見マラソン」や「青年団新聞」、地区行事などを行ってきました。

8年前「来て見て国見フェア」を開催し始め、現在では来場者およそ3000人までになっています。

このイベントを通じて、国見地区民に地区の観光や文化に誇りと自信を持つことが出来たのではないかと自負しています。

最後に、体の続く限り更に地区のまちづくりに頑張りたいと思います。

国見公民館運審委員 林 和真三



▲「大人気の魚の掴み取り」

一乗谷ふれあい夏まつり

一乗谷ふれあい夏まつりが7月27日(土)に雨の中開催されました。昨年度は台風が来るとの予報から中止を決定し、今年は準備の段階で雨の降ることは予想し一乗ふるさと交流館で場所を変えて、夜店は館内・軒下、一部テントと分かれて行いました。

何よりも心配したのが、地区の方々が雨の中を来ていただけるかとの思いがありましたが、各町内会長がそれぞれに雨の中でも開催することを呼びかけていただき多くの方々に来ていただき、地区の皆様は夏まつりを待っていたんだということをおたためて感じさせてもらった一日でした。

一乗公民館運審委員長 佐々木 正信



▲一乗谷ふれあい夏まつりの様子

編集後記

新しい年号がスタート。普段の生活をはじめ、いろいろなものが新しくなっていくような・・・？ 一方では何か新しいことをしなければ・・・という感覚にも・・・それもまたうなずける。

運審連では赤松会長が新しいテーマ“公民館に運審連がどうかかわるか”をみなさんに投げかけました。そこで「運審連だより“絆”」では委員のみなさんに公民館活動に役立つヒントになるよう楽しく充実した内容でお届けしたいと考えています。

編集委員 谷口 憲一郎